

## 9月例会開催 ～会社の「当たり前」を破壊し、新たな価値を創り出す～



令和2年9月15日、米子市観光センターにて令和2年度9月例会が開催された。冒頭の高塚会長の挨拶では、コロナ警報の影響で縮小開催となった例会への思いの他、トリアスロンへのボランティア参加への御礼の言葉を述べられた。また初めての試みであるリモートでの講師講演と例会参加を成功させ中央会の新たな一歩となるようにと述べられた。

続いて新入会員の石井道治会員へのバッジ授与が行われ、自己紹介と今後に向けた抱負が語られた。

そして地域の宝委員会の中西委員長による委員長タイムがあり、不慮の事故がきっかけで出会ったプラモデル製作についての手順や、注意点などの説明があった。例えば「フェラーリを赤く塗装する必要がない」といったように



製作の過程に答えは無く、自分自身の好きなように製作できる事や、時間をかけて制作した作品に対しては、愛着を感じられる事などの魅力があると伝えられた。



例会のメインであるzoomを使用したリモート講演会では、初めにビジネスメディア委員会柏木委員長より講演会テーマ「会社の当たり前を破壊し、独自性の高い新規事業を作り出す」を基にした趣旨説明と、日々、新規事業創出に取り組まれている(株)ホワイトの吉田航也氏の紹介が行われた。

続いて本編では講師より新規事業創出のコンサルティングを日々取り組まれる



中で、組織の中での課題とその突破方法をお伝えいただいた。

前半では製品を製作し差別化をする時代から、情報が価値の中心になるという時代の変化、それに対応したビジネスの形態の変化が伝えられた。まさにzoomなどインターネットを介したコミュニケーションの利用が各業界で進み、顧客に対しての価値観の提供が既存の形から破壊され、新たな価値観へ変化しているという内容。そして後半では、新規事業開発を担っていくリーダーが何を考えていかなければならないのか、「計画を立てて確実に実行しようとする」「失敗するのは優秀な人材がないから」「新規事業が成功するかどうかわからないから」という3つの誤解をどのように解消して新規事業を創出していくか、という内容であった。



最後は恵比木副会長より講師への謝辞で締めくくられた。顧客の目的を見極めた上で提供手段の当たり前を疑い、新しい価値を創造していく事。その為に中小企業らしい意思決定の速さと柔軟性をもって新規事業に挑戦していくことが必要だと述べられ、今後新たな価値観が生まれる期待を感じる例会となった。

(記事:狩野)

### 9月例会を終えて

広報委員会 柏木 克仁委員長 (有限会社育成 専務取締役)



第46期ビジネスメディア委員会が担当する例会が開催3日前に鳥取県コロナ警報の発令により、当会の事業開催ガイドラインに沿って縮小開催となりました。縮小開催により当初となる会員がzoomによるリモート参加する例会となりましたが、多くの会員の皆様に参加いただく例会になりました。本例会では、自社の当たり前を破壊し新規事業を創り出す手法について、株式会社WHITEの吉田航也氏をお呼びし、zoomによるリモート出演していただきました。実際に新しい切り口で事業を創り出した実践事例を基に、半ば先入観のような形ですり込まれた誤解から新常識を明確にすることで新たな事業を開発するキッカケになり、自己の価値観や自社の取り組みを再構築し、新たな物事を創り出していける一歩になったのではないのでしょうか。そして、9月例会に向け委員会メンバーと活発に協議する期間も少なかったのですが、様々な意見をいただきながらメンバーひとり一人が自主的に行動していただいたおかげで素晴らしい例会を開催することができました。私も半ば不安だらけのスタートでしたが、この度の例会を通してたくさんの英知・友愛を学ぶ機会となりました。改めて皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 福田一哉 新OB会長インタビュー



この度、鳥取県西部中小企業青年中央会OB会において、福田一哉OBが新OB会長としてご就任されました。通常であれば7月の総会・懇親会において我々現役会員へ直接お言葉を頂く機会があるのですが、今回は残念ながら懇親会の開催が中止となり、その機会も先送りとなっております。

そこで、福田OB会長にインタビューをさせて頂き、当会及び現役会員に向けたメッセージを頂戴しました。

## 新型コロナウイルスの状況下でOB会長の任をお受けになられたお気持ちは。

新型コロナの影響云々で引き受けたとかそういう訳じゃないが(笑)

本来は、総会できちんと決議して頂き皆様の前でご挨拶すべきだし、また(書面決議でOB会長就任に賛同して頂いた)皆様や、大先輩方に直接ご挨拶にお伺いすべきだと思ったが、それは控えさせてもらった。大変申し訳ないと思っているが、この状況下では仕方ない。

お引き受けしたからには、現役会員の活動を助け、もしくは助けられ、繋がりを持って頑張っていきたい。

## OB会長として、現役会員に望む事は。

具体的な事は無い。西部青年中央会は自分達の姿勢を示し、筋道を決めてくれれば何をやっても良い会。元々会のアイデンティティさえその時々自分達で決める会。青年中央会はそういった自由な発想の元に創られた会。大胆かつ慎重に、正しいというより筋を通して活動して欲しい。

今期のスローガン『協歩 ～冷静と情熱～』はまさに自分の思っている通りの中央会だと思い、とても良いスローガンだなと感じた。

## 45期で、これまで会を支えてこられた先輩方が数多く卒会された。どうしても会の活動に変化が起こっていくと思われるが、OB会長としてどのように見ていらっしゃるか。

自分達も中央会の第二世代と呼ばれ、色々な事が変わっていく中に居たが、会の根本となる土台は変えて来なかった。土台が揺らぐような事が無ければ、その土台の上にどんなデザインの建物を建てようが構わない。自分が望むのは、しっかりとした土台の上で、その時々でやりたい事を思い切りやり尽くして欲しいという事だ。

今まで活動の主であったメンバーが卒会したり、コロナ禍であったりしても、停滞してしまう事は良くない。先を見据えるのもいいが、今を全力で走り抜けるというのが、青年として大事な事であり、特権だと思う。コロナ禍でも活動を停止する事なく、できる事を探しやり続けたのはまさに中央会的な泥臭さを感じた。

もちろん批判や失敗はあるだろうが、「よしやろう!」でとにかくやってみるのも良い事だと思う。自分は現役の時会長時代に、『TRY&CHALLENGE』というスローガンを立てた。考えるのもいいが、一步を踏み出す事が大事。何でも頑張ってやってみれば良い。

お陰で自分が現役の時頃は随分怒られたものだが(笑)それも今振り返れば良かったと思えるものだ。

## 現役会員へメッセージをお願いします。

現役会員から見ると、OB会員というのは近付きづらい所もあると思うが(笑)

その中で、信頼関係を築いていければと思っているので、かつては同じ釜の飯を食った仲として、共に進んでいきたい。

(インタビューを終えて)

普段、会の活動の中で我々現役会員がOBの皆様を意識する事はなかなかありませんが、先輩方は我々の想像以上に現役会員の活動を注視していらっしゃる事が、OB会長のお言葉から伝わって参りました。

我々は過去45年に渡って築かれてきた歴史の上に居る事を認識し、その上で自分達の新たな活動をおこなっていく事が大事であると実感したOB会長のお言葉でした。

最後に、急なお願いにも関わらず、インタビューを快諾して頂いた福田一哉OB会長に感謝申し上げます。

(インタビュー:石田)

# 39.5th全日本トライアスロン鉄人皆生大会にかける思い

長年、当会が会員一丸となりボランティア参加をしております全日本トライアスロン皆生大会ですが、第40回という記念すべき今大会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、来年度開催に延期となりました。このような社会情勢下の中でも、来年へ良い形でバトンを渡すべく、多くの関係者の皆さまの尽力で開催形式を変更しての代替大会が鉄人皆生大会として開催されました。

私たちも有志を募り、マラソンコースのエイドステーション運営に携わってきました。例年、大会当日に全てをかけるべく、力の限りの応援や選手のサポートを行います。その想いは今大会も変わらず、参加者全員で精一杯のサポートに尽力しました。

この鉄人皆生大会は分散開催とするべく3週間の期間中、毎週末の土日開催となりました。毎回天候も異なり、雷の鳴り響く中でのレースや大変な酷暑のレースと、毎回様々なドラマが起こりました。そして、例年と異なる弓ヶ浜サイクリングコースを使用したマラソンコースは、遠くまで広がる日本海と大山をバックに新たなドラマの舞台にふさわしく感じました。

来年、節目となる第40回大会へは、これまで以上に精一杯のサポートをすべく、気持ちを新たに向かい合っていきたいと思っております。



安達信彦  
(株式会社平設計 設計課長)



# 第46期ハンサム連載『会社の「当たり前」をやめた!』

『会社の「当たり前」をやめた!』Vol.2

## 株式会社 ライオンハート

第二編集部 石井美佳(リーダー)、竹谷友成、石田倫章、小原武史



通所介護を行うデイサービス「エレファント」、訪問介護を行うヘルパーステーション「オルカ」、自宅での看護・リハビリを行う訪問看護リハビリステーション「ラビット」の3つの事業を行っておられます。今回は、代表取締役社長 森本宙氏、副社長 影山大志氏に介護業界で異色の活躍をされている秘訣を取材させていただきました。

### 介護施設をイメージさせない雰囲気

介護施設というのは、病院のような雰囲気のイメージでしたが、貴社はとても明るいですね。

そう感じていただけるのはとても嬉しいです。施設を立ち上げたときから、病院っぽくない、施設っぽくない環境づくりを意識していました。

具体的には、病院・施設などで使用している家具などを使用せず、利用者様ご自宅で利用している普通の家具を使用して、できる限り快適に利用していただけることを心がけていました。

介護施設というと、バリアフリーをイメージされると思いますが、実際に私たちが行っている「自立支援」というのは、社会の中、つまりバリアがたくさんある中での自立をサポートしていくものですので、必要なバリアを上手に残していくということを考えて実践しています。

また、利用者様だけでなく、そのご家族も支援していきたいと考えています。そのために、利用者様には自分でできることを自分でできるようになっていただき、必要な分はサポートしていきながら、ご家族の負担を軽減し、安心して働いてもらうという形で経済に貢献していると思っています。

色の使い方もこだわっています。高齢者や認知症の方には、スタッフの名前を憶えることが難しい方もいらっしゃるのです。そのような方の負担を軽減すべく、開所当初はスタッフ全員がそれぞれ異なる色の服を着ていましたし、スタッフが



副社長 影山大志氏 代表取締役社長 森本宙氏

増えた現在でもなるべく色の違いが出るようにしています。名刺の背景色も赤や黄色にしてみました。そうすると利用者様やご家族の方にスタッフの名前がわからなくても「●●色の人」と認識してもらえます。職員全員の名刺を作っていますので、トレーディングカードのように集めて楽しんでいる利用者様もいます。

何より私たちスタッフが、色があってにぎやかな職場を楽しんでいます。



### 施設立ち上げへの思い

会社立ち上げの経緯について教えてください。

もともと私たちが働いていた前職でも、とても充実していたのですが、施設が大きく、すべての利用者様を自分でサポートすることができていませんでした。そのとき「自分たちでサポートできる方々を全力でサポートしたい、もっとできることがあるんじゃないか」という思いなどで意気投合して、準備を始め、この事業を6年半前に立ち上げました。

不安は確かにありましたが、夢や理想を語り合い、その夢が1つ1つ実現していくことが楽しくて仕方がありませんでした。

### 動物の社名やデザインについて

貴社の社名や、事業所の名称が動物になっていますが、なぜですか。

ありきたりのものや奇抜なものはやめようと思い、なじみやすさを重視して動物が入った社名にしました。事業所を動物シリーズで統一することにし、その中心となる会社名を百獣の王であるライオンとしました。

「ライオンハート」には、英語で「勇敢な心」という意味があるほか、「Life on Heart」というのは、造語なのですが、「心をもって心あるひとの生活を支援する」

という意味を込めています。会社名=経営理念となっています。

AIなどの発展により生活は便利になっていますが、生活を支える方々にも「心」があり、その生活を支えるのも我々の「心」しかないと思っていますので、AIなどでは代替できない「心」にしっかり向き合っていくという理念です。

また、社名、各事業所のロゴはハートをモチーフにしています。



### 入所待ち人気の秘訣

デイサービスが常に入所待ちの状態とのことですが、人気の秘訣はなんですか。

デイサービスの規模には、小規模、通常規模、大規模がありますが、弊社は1日当たり18名を上限とする小規模なものです。

私たちは、介護の質が重要と考えており、小規模にすることで、利用者様一人ひとりにスポットを当て、充実した1日を過ごしていただきたいと思っています。

そして、各サービスにはそれぞれ専門職を配置しています。スタッフの95%が国家資格を持っています。その分人件費はかかりますが、スタッフの質が高ければ、サービスの質も高くなりますので、定員が少なくても、常にフル稼働することで経営は安定します。

同時に、専門分野だけではなく、すべての分野でサポートできるようなジェネラリストにもなっていたくよう指導しています。

### 「当たり前」にこだわりのポイント

自分でこだわっているポイントがあれば教えてください。

ひとつは、送迎車に社名を入れていません。利用者様の中には介護事業を使いたく使っていないわけではない方もおられると思いますので、社名が入っていると、送迎時にご近所の方に知られてしまうリスクがあると考えたからです。

ふたつ目は、利用者様を一人の男性、女性として尊重していることです。例えば、この業界では、入浴介助を同性のスタッフだけでなく異性のスタッフも対応することが多いのですが、弊社では、男性には男性スタッフ、女性には女性スタッフが担当させています。そうすることで、ご自身が男性だ、女性だと再認識していただくこともつながりますし、自分が利用者、もしくは、その家族であってもそのようにしてもらいたいと思うのが当たり前だと考えたからです。

我々は我々が「当たり前」と思うことを「当たり前」に行っているだけです、これからはそうしていくつもりです。

### インタビューを終えて

株式会社ライオンハートは、常に利用者・ご家族の方の目線に立ち、利用者・ご家族の方が真に何を求めているかを追求しており、それが人気の秘訣のだと感じました。

また、「当たりのことをやっていることが当たり前ではないと世間から考えられている」という言葉から、もう1度自分の「当たり前」を振り返って見る必要があるのではないか、そしてそこに「当たり前」を変えるきっかけがあるのではないかと感じました。



# 「この一球にかける」



永井拓末(株式会社クラム 代表取締役)



中央会野球部のキャプテンを務めさせていただいている永井です。我々中央会野球部は高塚監督の指揮のもと部員20名で中海テレビ杯優勝を目指し、厳しい自主練習を積み重ねています。若く能力に優るチームにも勝てるよう、野球の技術だけでなく、精神面、人間力を鍛えるため、中央会活動にも積極的に取り組んでいます。先日、野球部の新OB3名(竹ノ内OB、西田OB、松田OB)の送出し会を開催しました。あいにく雨のため、湊山球場で予定していた試合は中止になりましたが、懇親会はOB会員15名にも参加いただき盛大に開催されました。脈々と受け継がれる伝統の中央会野球部の絆を改めて感じました。



昨年の中海テレビ杯では準決勝まで勝ち進み、優勝チームをあと一步のところまで追い詰めました。その成績を超えるよう山根社会員、田本真大会員、豊嶋翔矢会員の3名の新入会員を迎えております。今年は全員野球で勝ち進みたいと思いますので応援よろしくお願いします。

※新型コロナウイルスのため、今年の中海テレビ杯は中止となりましたが、来年に向けて精一杯活動してまいります。

野球部部員を紹介させていただきます。●監督/高塚康治 ●主将/永井拓末 ●副主将/山内正樹 ●事務局/安藤睦男、徳中大慈 ●部員/山口尚文、野口浩一、福本隆史、今川圭一、渡邊公平、内田隆嗣、繁浪誠治、景山慎也、新井翔太、金山 勝、坂本 剛、高見秀幸●新入部員/田本真大、豊嶋翔矢、山根 壮

## 会長連載

# 勇気ある一歩

～クールヘッド・ホットハート～

第46期 会長 高塚 康治

会長連載2回目、今回は「緊張」というテーマでお送りいたします。緊張することはいいことですか?悪いことですか?私は以前スポ少の指導者をしていましたが、子どもたちに「緊張するな」とは言いませんでした。だって大事な試合前、そりゃあ緊張しますよね。逆に緊張してもいいんだよと伝えていました。程よい緊張感のおかげでいい結果がついてきた、なんて経験をお持ちの方は多いと思います。

当会の会長を受けさせていただき、一番の緊張する場、総会懇親会での会長挨拶がなくなり、気が付いてみるといまだに会員の皆さんの前で会長挨拶をしていないことに気がつきました。10月例会はできるといいなと思いつつ、緊張している私の顔もどうぞお楽しみください。

## ちょっと待った!! 現役ナンバー1

石井 道治

(かばはうすホールディングス(株) 米子駅前店 副店長)



ちょっと待った!現役ナンバーワンの「クッキングパパ」です。職業柄、日々お客様に料理を作り提供しております。そんな私がご紹介するのは、鳥取県民はイカが好きという事もあり「居酒屋風いかめし」です。一般的な「いかめし」はもち米を用いて煮付けて作りますが、私がご紹介する「いかめし」はもち米を使いませんし煮付けもしません(笑)。先ず白いかのゲソ等を取り綺麗にします。次に当社で大人気の商品!当社秘伝のタレを使用した玉子かけご飯にゲソを細切りにしイカ墨も少々混ぜ合わせます。白いかに詰めて串を打ち塞ぎます。炭火でじっくり焼き上げ、甘味タレを付けて更に焼き上げます。切り分けてお皿に盛り付け完成です。想像するだけでヨダレがでます。

私は料理が好きで家で作ります。家族に試食してもらい、お店でオススメメニューになったりします。美味しい料理を食べると皆が笑顔になります。料理って本当にいいものですよ!

## 竹谷会員Happy Wedding

竹谷会員が2020年6月20日にめでたくご入籍されました!  
今回は本誌独占インタビューに成功!末永くお幸せに……♡

【独占インタビューQ&A】

●出会のきっかけは?交際スタートはいつですか?  
きっかけ:7年前の高校の同窓会(らしい) 交際期間:7か月

●第一印象はどうでしたか?

竹谷さん:記憶にない(笑) 奥様:冷たくて神経質そう

●お相手の好きなおところはどこですか?

竹谷さん:意気をはっきり言ってくれるところ 奥様:おおらかなところ

●相手に直して欲しいところは?

竹谷さん:な、ない…。 奥様:早く寝てほしい

●結婚しようと思ったきっかけは?

竹谷さん:逃げ恥をみて、結婚もいいか、と思ったので。カッキー&星野源さんありがとう☆

●どんな家庭にしたい?

竹谷さん:何でも言いあえる家庭 奥様:会話が多い家庭

●10年後はどんなになっていた?

竹谷さん:今のようにならないうらやましい

奥様:月1ペースで宝塚(劇場)に行きたい

【竹谷会員より今後の抱負をいただきました!】

残り1年を切った中央会生活ですが、入会して以来、先輩・OBの皆さんを始め、会員の皆さんに教わってきたことを、後輩や会員の若い会員に少しでも伝えられたらと思います。また、会員数の少なくなった今、今後の会員拡大に繋げるためにも、内向きになりがちな会員の目線を外部に向け、中央会そのものの露出を増やすお手伝いをするのを、会への最後のご奉公(「青年中央会って何?」っていう感じの一般市民が世の大半である、という自覚の無い会員が多いので)にするつもりです。それにしても、中央会生活も丸14年目を過ぎ、自分でも、まさか自分が現役中に結婚するとは思っていませんでした(爆)が、夫婦ともども、今後も引き続きよろしく願います。



## 10月役員会報告

令和2年10月1日(木)米子市公会堂 集会室6・7にて10月役員会が開催されました。議題は以下の通りです。

- 9月例会報告の件
- 鳥取県中小企業青年中央会の件
- 10月例会開催の審議
- 新入会員オリエンテーションの審議
- 11月例会開催の協議

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

## 編集後記

ホテルでも、9月例会で行ったZoom講演会のような形が急増しています。

今までは「当たり前」だったことが「前は講師にわざわざ来てもらっていたよね」なんていう当たり前じゃなくなる日もくるんじゃないかな。

(ビジネスメディア委員会 石井)